

スイスで花開 日本人による大型木造

輸入建材商社のイケダコーポレーション(大阪市)が企画するエコバウツアール2013は9月15日、スイス・ドイツの各都市を訪れた。今年で17回を迎えるツアーには工務店関係者を中心に全国から22人が参加。エネルギー問題をベースにサステナブルな建築や未来に残したい建築のあり方などを、同業の参加者が共に考えることのできる貴重な経験となった。視察記の第1回は出発地点のスイス・チューリッヒで見た話題の建築を紹介する。コーディネートと解説はドイツ環境省のアドバイザーなどを務める建築家ホルガー・ケーニツヒさん。(取材・文:若林利通)

スイス最大の都市チューリッヒの都心に日本人建築家・坂茂(ばしげる)氏が設計した大規模木造建築が7月完成し、エコバウツアール参加者の多くが見学した。この建物は、ドイツ語圏の日刊紙ターゲス・アンツァイガーなど数紙を発刊するメディアグループ「タメディア tamedia」の本社ビル。都心を流れるシール川のほとりに完成したもので、7階建て延床面積8905㎡の大型木造建築だ。総ガラス張りの洒落

欧州エコ建築の最先端 スイス・ドイツ エコバウツアール視察記①



tamedia本社
オフィス街に調和したマンサードを持つ大型木造建築「タメディア本社ビル」

た外観は街並みに調和し、マスコミ本社の重々しさを感じさせない。1階エントランスホールに入ると、骨組みとなる大きな柱と梁が目前に迫り大規模木造建築の威容に驚かされる。使用木材はスプルースだ。スイスでは20世紀初頭まで山小屋風別荘(シャレー)に代表される伝統的な木造建築物が造られ市街地においても木材が採用されてきた。しかし、その後の「資源節約」を基本理

念とする紙管(紙でできた管)による家具が置かれている。今回、構造に木材が採用された理由は「唯一再生できる建材が木材であること」であったが、この基本理念が大型木造建築につながった。構造を見ると単に「木材は再生できるから」というだけでなく「木材でなければできないから」という理由で採用されたことがよくわかる。そのひとつが梁と梁のジョイント部分。通常大型木造建築では金物を使うのが普通だが、そこを木材

でつないだことに意義がある。そして木材でなければ考えられない丸みを帯びた加工が癒しを感じさせる。窓際のソファに腰掛

再生可能資源として見直し 先端木材技術の集大成に



▲エントランスホール



▲紙管による家具

◀オフィス内部

開口部を可能にしているのは、日本同様に林業国として長い歴史を持つスイスの木材技術にある。スイスの木材生産額は約8000億円、スイスのGNPの1・8%と大きくないが、時計産業同様に技術立国としての象徴的産業である。今回の木材加工工場を訪れたのは北スイス・ゴッサウに本社を持つ木材加工専門会社「ブルーマー・レーン」。

同社は、建築家が設計するミリ単位のデザインに対応する技術力を駆使し、タメディア以降の木造大型建築でも活躍している。木造建築のCO₂排出量はコンクリート建築の1/3といわれる。耐火性能についても、タメディアでは通常の柱サイズに4cmの厚みを付加することで、表面が燃え炭化した後でも十分な構造性能を維持できるように設計されている。スイスにおいて日本人が設計した大型建築が愛され数百年の時を経て後生の人の目を楽しませることを期待したい。

記者の目

視察記のはじめに



視察先でケーニツヒ氏の説明を聞く参加者

ドイツの考え方を学びたい

気候的に北海道に近い風土を持つドイツのバスの旅では、都市と都市の間に自然豊かな丘陵地帯が続く。それがひとたび都市に踏み込むと、豊かな地域色を感じさせてくれる。これは、建物の外壁や屋根などの色や素材を制限する日本では到底受け入れられそうもない私権制限がこの国の景観をコントロールしているからだ。おかげで派手な配色の看板や広告類がなく、常に来訪者に期待通り環境への配慮が大切

か」と聞いてみた。「環境技術や建材を輸入するだけというのではなく、日本との違いは何か、その考え方を学びたい」という回答が返ってきた。解説者のケーニツヒさんにも「日本に持ち帰って欲しいものは」と聞いたところ、「ドイツ語にはアンレイゴング(好奇心を生かすこと)」という言葉がある。好奇心を向けてもらえれば、何でも話したいし紹介したい。ドイツはそうした開かれた国だから」と満面の笑みで答えてくれた。

欧州エコ建築の最先端
スイス・ドイツ
 エコバウツアー視察記②

「日本には民家や町
 文化にも造詣が深い。
 建築の実践事例を提供し
 てきたが、日本の建築
 文化にも造詣が深い。
 ケーニツヒ氏はバウ
 ビオロギー建築の設計
 活動の一方で、住宅性
 能評価システムの開発
 を進めてきた。エコバ
 ウツアーでドイツを中
 心にバウビオロギー建
 築の実践事例を提供し
 てきたが、日本の建築
 文化にも造詣が深い。
 ケーニツヒ氏はバウ
 ビオロギー建築の設計
 活動の一方で、住宅性
 能評価システムの開発
 を進めてきた。エコバ
 ウツアーでドイツを中
 心にバウビオロギー建
 築の実践事例を提供し
 てきたが、日本の建築
 文化にも造詣が深い。」



ホルガー・ケーニツヒ氏

日本の生活文化に未来のヒントが

屋、土蔵など伝統的な生活文化があり、日本人はその住宅を生かす住まい方やそれを維持する社会的な仕組み・ルールを守ってきた。バウビオロギーを知るヒントは日本の伝統の中にある」と話す。

「(ドイツ人からみると)日本人は原発による大惨事を津波のせいにしてはいるが、それは大きな間違い。世界で起きた過去の原発事故による汚染問題の大きさを軽く考えてきた結果だ。特に環境に関わる情報には世界が日々注視している。代替エネルギーの判断を未来に先延ばしにすることがないように」と日本人の関心が薄れていくことに警鐘を鳴らした。

「ケーニツヒ氏は、こうした点からも「生活の質の向上を実感しながら、同時に省エネルギー・省資源を実現する生活空間づくりへの転換が急がれる」とし、バウビオロギーが提供する健康な家づくりの処方箋としていくつかのポイントを挙げた。

「まず「気候に根差した家づくりを選択すること」。外部から受ける影響を家の外皮によってコントロールし、建物のエネルギー要求量をいかに抑えるか。そのうえで日本の多様な気候条件に応じ、夏の涼風や冬の日差しなどの自然エネルギーを最大限に活用することが大切だという。」

「「そうして家庭での電力消費の9割を占める熱エネルギーをカットし、それで足りない部分をライフスタイルや建築性能に合わせてエネルギー効率のよい機器やシステムを選択する。さらに、これらの効果を把握するためCO₂の排出量や毎月の光熱費などわかりやすい指標で判断することが大切だ」とした。

「バウビオロギーは、失われてしまった日本の伝統の暮らし文化を再興に導くキーワードのひとつでもある。生活の質や豊かさを実現しながら、社会環境との調和を図る具体的な手法を模索するヒントがここにある。」

気候風土に根差した家づくり バウビオロギーを処方箋に



▲スイス・チューリッヒ市内で文化財保護の指定を受ける役所施設。2年前まで断熱改修を含むリノベーションが行われた。断熱効果と持続性の両面から天然の石灰岩からできた漆喰が使われた



役所施設内で説明を受けるセミナー参加者

「まず「気候に根差した家づくりを選択すること」。外部から受ける影響を家の外皮によってコントロールし、建物のエネルギー要求量をいかに抑えるか。そのうえで日本の多様な気候条件に応じ、夏の涼風や冬の日差しなどの自然エネルギーを最大限に活用することが大切だという。」

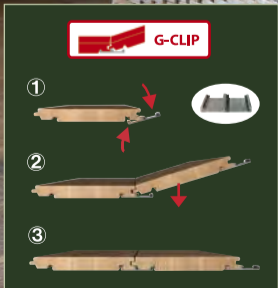
「バウビオロギーは、失われてしまった日本の伝統の暮らし文化を再興に導くキーワードのひとつでもある。生活の質や豊かさを実現しながら、社会環境との調和を図る具体的な手法を模索するヒントがここにある。」

置き床式 無垢フローリング **G-CLIP FLOORING** ジークリップ フローリング

釘・接着剤いらずの手軽な簡単施工。
 置き床施工のため、張り直しや撤去が非常に簡単!
 個人住宅はもちろん、頻繁に改装が必要な店舗などにも最適。



樹種: ホワイトオーク
 仕上げ: ナチュラルウレタン仕上げ
 カラー: ナチュラル・カフェ
 サイズ: 18mm×150mm 乱尺 1.89㎡/箱
 価格: ¥19,500/箱 (¥10,317/㎡)



株式会社 ナガイ
 インテリア事業部

www.nagai.co.jp
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 3-6-26
 TEL: 03-5772-4701 FAX: 03-5772-4702

お客様から選ばれ続ける工務店になるために 必要なことは何ですか?

現役工務店、静岡県納得住宅工房が創業15年増収増益で築きあげた成功ノウハウに答えがあります。

全国セミナー開催

- 11/5 東京会場
- 11/22 東京会場
- 11/25 大阪会場
- 12/10 福岡会場

各会場先着5名様、要事前予約
 ※詳細は別途ご案内させていただきます。

自分自身が確信し実績をあげてきたからこそ、全国の工務店経営者の皆様に、出来る限りお伝えしたいと思いました。『納得住宅工房』が何故お客様に支持を頂いているのか? 全部、教えます! 本気になりましょう! 住宅業界を改善し、明るい未来を創り上げましょう。



セミナー講師: 久保 淳
 代表取締役社長 納得住宅工房(株)

- ・売れる商品、納得オリジナル住宅「VIVACE」で他社との圧倒的な差別化が可能に!
- ・オリジナリティ溢れるデザイン商品・建材を驚きのコストパフォーマンスでご提供!
- ・他社がやらない集客システムで差別化を実現!
- ・見学会来場者120組超、年間130棟受注の秘密!
- ・全国区で高いブランディング力を武器に地元で圧倒的な知名度・ブランディングを獲得する!
- ・一流ホテル並みのホスピタリティによる社員教育で紹介率50%以上を実現させる!

■お申込み・資料請求お問い合わせは
納得倶楽部 検索 ☎ **0545-55-1233**

NATTOKU STYLE HOME 納得倶楽部 いいね!
 「いいね!」を押して下さい。

視察記

断熱改修で引き継がれる漆喰文化

イケダコーポレーション(大阪市)が提供するエコバウ建築ツアーは、欧州の建築・建材を通じてパウピオロギー(建築生物学)を日本の建築事業者に広く紹介するねらいがある。



HAGA社
トーマス社長

解説者のホルガー・ケーニツヒ氏は「建築は長く工学と芸術の間であって、人間のため

「スイス漆喰」として知られる壁材を供給しているHAGA社(スイス本社・1953年設立)の製品を使ったリノベーション事例などを見学した。

石灰石からつくられるスイス漆喰は、そのサイクルのなかで発生した二酸化炭素を製造過程で吸収しながら、強固で吸放湿性を持つ建材に再生され、主に壁材で使われてきた。その事例として、スイス・ゼーバッハで1472年につくられたという集団農場の母屋(木構造)を、HAGA社がリノベーションして公営住宅にしたケースを見学した。「冬は水に閉ざされ

る寒冷地の宿命として建物への負荷が大きく、20年に一度の修復を行っていた」とHAGA社のトーマス・ビュラー社長。「建設当時は貧しい



石の街並みに映える伝統的な木造共同住宅。ここでも省エネ効果の高いリノベーションが行われた

ライフサイクルで環境負荷小さく

人々の家だったが、今では高い断熱と防犯の性能を持ち、多くの人に注目される伝統的な農家風住宅に生まれ変わった」と嬉しそう。チューリッヒでも、HAGA社が断熱改修に関わった役所施設(1910年に建設)を見学。文化財保護の指定を受ける同施設は大幅な変更ができないものの、内外装材の修復(断熱性能のあるミネラル建材を外側に3cm、内側に5cm付加した)によって断熱性能を飛躍的にアップさせ

ることで大幅な省エネが図られた。これによって従来のボイラー使用をやめ都市暖房への切り替えが行われたことで、エネルギー使用量は3分の一に減少したという。

負の遺産を残さない覚悟

「50年という単位で改造して使用するのが建物を長期で維持する基本。発泡材やポリウレタンではこの期間の使用には耐えられない」と、ホルガー・ケーニツヒ氏はいう。

建物の持続性と使用建材の関係

「50年という単位で改造して使用するのが建物を長期で維持する基本。発泡材やポリウレタンではこの期間の使用には耐えられない」と、ホルガー・ケーニツヒ氏はいう。

(取材・文:若林利通)

たった3分でわかる! 工務店様必見のダイジェスト版を無料プレゼントしちゃいます♪

「テーマパーク式見学会」

3分でわかる『テーマパーク式見学会』

運営テクをDVDで大公開♪

ぐ〜んと伸びている工務店はここが違った!!

テーマパーク式見学会とは?

とある小さな街の工務店様が実施している見学会には、お客様のハートをグッと掴んで一瞬でファンにさせてしまう、驚きの運営テクニックが隠れていました。お客様はまるで遊園地にいるような感覚になり、不思議と楽しみながら見学されます。いわば、家づくりを学べるテーマパーク式見学会なのです♪

さらに、運営スタッフはたったの3人。営業マンは必要ありません。なぜなら秘密の〇〇が営業をしてくれるから…♪

あなたの会社の見学会に取り入れてみては…?

楽しかったね! また来ようね!

200名様 無料進呈

ダイジェストDVD

地域工務店・建築会社の経営者様は必見のDVDとなっております。お申込みが殺到する恐れがありますので、お早めにお申込み下さい。

お申込みは2分で簡単! テーマパーク式見学会 検索

NAC 株式会社ナック

本社 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル42階 TEL:03-3340-3000

視察記

欧州エコ建築の最先端 スイス・ドイツ エコバウツアー視察記③

リノベーションによって築が500年以上という農家住宅と居住性能の高い公営住宅とで蘇った

